

公益財団法人万有生命科学振興国際交流財団 平成 25 年度事業報告

I. 概況

当財団は、人類の健康・疾病に関する生命科学研究の向上を目的として、平成 14 年 10 月に文部科学大臣の認可を受けて設立し、寄附行為に定める諸事業を開始した。

平成 20 年 12 月 1 日施行の公益法人制度改革関連法に基づき、当財団は平成 23 年 4 月 1 日付にて財団法人万有生命科学振興国際交流財団の解散登記並びに公益財団法人万有生命科学振興国際交流財団としての設立登記を行った。また、平成 24 年 5 月 28 日付にて、事業目的に表彰事業追加の変更認定を取得した。

平成 25 年度事業活動としては次のとおりであり、既存事業の継続と充実を図った。

II. 事業活動報告

1. 医学領域:

①研究助成(Banyu Foundation Research Grant)

本年度は、生活習慣病領域、東日本大震災に伴う健康障害に関する研究、感染症領域の女性研究者への支援の計 3 つの研究助成を行った。

(当事業は、「助成(応募型)」並びに「表彰、コンクール」の両事業区分に該当する。)

—生活習慣病領域—【公募期間:4月1日～6月20日】

- 目的 生活習慣病領域の基礎・臨床研究分野における研究者の育成とその研究奨励
- 研究課題 生活習慣病領域の疾病の原因解明と新たな治療法の開発
- 募集人数 20 名程度
- 研究助成 1 件あたり 200 万円(100 万円×2 年間)
平成 24 年度に決定した交付者 21 名(2 年目)、平成 25 年度に決定した交付者 21 名(1 年目)に、それぞれ助成金(各 100 万円)を交付した。
- 交付者決定/公開 7 月に 3 分野(循環器、動脈硬化、糖尿病)の選考委員による書類審査を行い、9 月に選考委員会を開催、平成 25 年度交付者 21 名を決定し財団ホームページに公開した。11 月 23 日に授与式を行った。
- 万有医学奨励賞 平成 23 年度交付者 20 名の 2 年間の研究成果報告について書類審査、選考を行い、第 2 回万有医学奨励賞受賞者 6 名を選出した。この 6 名は、11 月 23 日に開催された「第 2 回万有医学奨励賞報告会」においてその研究成果を発表し、選考委員による選考が行われた。この結果、最優秀賞(追加助成 300 万円)は、慶應義塾大学医学部 循環器内科 家田 真樹先生に決定し、優秀賞(追加助成各 100 万円)5 名とともに表彰を行った。

—震災研究支援—【平成 24 年度募集終了】

- 目的 東日本大震災による健康障害の調査を伴う研究に助成し、震災に伴う健康障害の予防・治療に関するエビデンス構築を支援する。
- 研究助成 1 件あたり 600 万円(200 万円×3 年間)
交付者 6 名に 2 年目助成金(各 200 万円)を交付した。
- 交付者決定/公開 12 月に選考委員による書類審査を行い、平成 26 年 1 月 19 日には、選考委員と交付者による応募研究に関する中間報告会を行った。

一女性研究者支援～異分野融合型研究をめざして～ 【公募期間:8月1日～10月20日】

- 目的 感染症・ワクチン領域におけるアンメット・メディカル・ニーズに、異分野連携型研究で取り組む女性研究者を支援する。
- 募集人数 6名程度
- 研究助成 1件あたり200万円(100万円×2年間)
平成24年度に決定した交付者(2年目)6名、平成25年度に決定した交付者(1年目)6名に、それぞれ助成金(各100万円)を交付した。
- 交付者決定/公開 11月に選考委員による書類審査を行い、12月に選考委員会を開催、交付者6名を決定し財団ホームページに公開した。平成26年2月22日に授与式を行った。

②海外留学助成(Banyu Fellowship Program)

我が国の学術研究の将来を担う 国際的視野に富む有能な研究者を育成・確保するため、優れた若手研究者が海外へ留学し、大学等研究機関において研究に専念できるよう支援するものである。

「循環器領域」「呼吸器・アレルギー領域」の2領域で募集・選考・交付者決定を行った。「疫学・生物統計学領域」については、平成23年度に決定した交付者に助成金を交付した。

加えて、循環器領域の対象分野拡大のための検討並びに選考委員等との確認を行った。

(当事業は、「助成(応募型)」の事業区分に該当する。)

一循環器領域一 【公募期間:6月1日～9月15日】

- 募集人数 5名程度
- 助成金額 1件あたり400万円(400万円×1年間)
平成24年度に決定した交付者5名に助成金(各400万円)を交付した。
- 交付者決定/公開 10月に選考委員による書類審査を行い、11月に選考委員会を開催、交付者5名を決定し財団ホームページに公開した。平成26年3月22日には、当プログラム開始15年を記念し、第78回日本循環器学会学術集会共催『Banyu Fellowship Forum in Cardiology-留学助成15年の歩み-』として、平成25年度授与式と共に歴代の交付者、選考委員、関係者等を集めた講演会及び交流会を開催した。
- 対象分野の拡大 近年増加している生活習慣病領域の一層の研究推進のため、平成26年度より応募対象分野を循環器領域より生活習慣病領域へ拡大することについて、平成26年3月開催の理事会において承認、評議員会において報告された。

一呼吸器・アレルギー領域一 【公募期間:6月1日～9月15日】

- 募集人数 3名程度
- 助成金額 1件あたり600万円(300万円×2年間)
平成23年度に決定した交付者(2年目)3名及び平成24年度に決定した交付者(1年目)3名に、それぞれ助成金(各300万円)を交付した。
- 交付者決定/公開 10月に選考委員による書類審査を行い、11月に選考委員会を開催、交付者3名を決定し財団ホームページに公開した。平成26年3月9日に、平成22年度留学助成交付者2名による帰国報告並びに平成25年度授与式を行った。

一疫学・生物統計学領域一【平成 23 年度募集終了】

- 平成 23 年度に決定した交付者のうち 1 名に、助成金(100 万円)を交付した。

■ 認知度アップのための活動について

事業活動の認知度アップのため、当財団ホームページ掲載に加えて、次の活動を行った。

- 国内の関連大学・医療機関等へポスター・リーフレットを配布
- 関連学会ホームページに掲載
- 医薬業界誌等に対してプレスリリースを実施
- 関連学会展示

関連学会へのパンフレット送付に加えて、次の学会にて展示を行い、事業内容、募集要項について学会出席者に直接説明を行った。

- 4 月 日本呼吸器学会
- 5 月 日本糖尿病学会
- 8 月 相模原臨床アレルギーセミナー
- 10 月 日本肥満学会

2. 有機合成化学領域:

学術講演会の開催並びに助成

(当事業は、「講座、セミナー、育成」の事業区分に該当する。)

① 各地区シンポジウム

平成 25 年度に計画した有機合成化学分野の 5 つの学術講演会(福岡、仙台、札幌、名古屋、大津)は、全て盛況に開催された。参加者の合計は、約 1,800 名であった。

② 名古屋メダルセミナー

名古屋メダルセミナーでは、ゴールドメダルがオランダ University of Groningen の Ben L. Feringa 教授、シルバーメダルが大阪大学大学院工学研究科の茶谷 直人教授にそれぞれ授与され、受賞講演と授賞式が行われた。

③ 大津会議

第 4 回大津会議では、全国から選抜した 16 名の若手研究者との討論・交流が行われた。

また、過去 3 回の参加者を対象とした合同研究発表会を開催した。約 30 名が参加し、参加回を超えた若手研究者の交流を深めた。

④ 万有シンポジウム連絡協議会

平成 26 年度に実施予定の「第 24 回万有福岡シンポジウム」、「第 25 回記念万有仙台シンポジウム」、「第 26 回万有札幌シンポジウム」について、各組織委員会で内容が決定され、それをうけて有機合成化学シンポジウムの連携と更なる充実を目的とした「万有シンポジウム連絡協議会(野依良治先生他 10 名の有機合成化学研究の第一人者で構成)」の第 8 回会合を平成 26 年 1 月に開催した。

⑤ その他

8 月に開催された「向山アルドール反応 40 周年記念シンポジウム」へ助成並びに運営サポートを行った。野依良治先生、海外研究者を含む 10 名による講演が行われ、約 450 名が参加した。

Banyu Chemist Award (BCA) & Lectureship Award MBLA

(当事業は、「助成(応募型)」並びに「表彰、コンクール」の両事業区分に該当する。)

【公募期間:6月1日～8月15日】

- 9月に行われた書類選考により「Banyu Chemist Award (BCA) 2013」5名が選出された。
- MBLA 面接選考会は11月に開催され、名古屋大学大学院工学研究科 准教授 浦口 大輔先生が「Lectureship Award MBLA 2013」に決定した。
- 前年「Lectureship Award MBLA 2012」を受賞した大阪大学大学院工学研究科 准教授 鳶巣 守先生については、7月6日開催の「25周年記念万有札幌シンポジウム」での講演と授賞式、また10月には米国及び欧州の著名な大学、研究所での講演ツアーを行い、その報告・紀行文を有機合成化学協会誌に投稿した(平成26年4月号掲載予定)。

3. その他

青少年国際交流助成

(当事業は、「体験活動等」の事業区分に該当する。)

青少年の健全な育成と国際交流を目的とした「第29回 NPO 環太平洋学生キャンプ」(8月、国立信州高遠青少年自然の家)が開催された。平成25年度助成金を支払った。

III. 管理業務報告

1. 平成24年度事業報告及び決算等について、平成25年6月18日に開催された理事会、同月25日に開催された評議員会において承認され、同月28日、内閣府に対して定期提出書類の提出を行った。
2. 平成25年6月25日に開催された評議員会において理事改選について承認され、同日の理事会において代表理事及び業務執行理事が選任され、7月18日、内閣府に対して変更の届出を行った。
3. 平成26年度事業計画及び収支予算等について、平成26年3月11日に開催された理事会において承認、評議員会において報告され、同月26日、内閣府に対して定期提出書類の提出を行った。
4. その他
 - ① 財団運営に関するルール整備並びに業務プロセスの見直しを継続的に行った。
 - ② 各事業への応募者／参加者が当財団ホームページから申請/申込みができるよう、Web 申請システムを構築するとともに、応募、申請、審査、報告に係る情報の一元管理ができる環境を整え、平成25年度の募集、選考から本格的に運用した。

以上